

■ 投資銀行ビジネス

平成20年度の成果

国内シンジケートローンのアレンジ実績において、米IBM社などの外国企業向け円建てシンジケートローンを組成するなどの実績により、平成19年度に続き2期連続してリーグテーブルNo.1となりました。海外においても、プロジェクトファイナンスの取組実績が評価され、PFI誌より「Global Bank of the Year」を受賞、また決済サービスの分野ではAsiamoney誌が実施したキャッシュマネジメントに関する顧客アンケート調査において、国内では首位、アジア太平洋地域では邦銀初のトップ5入りを果たすなど、プレゼンスを高めています。更にお客さまの地球温暖化防止に向けたニーズに対応すべく、排出量取引を中心とした環境ビジネスを推進しました。

大和証券SMBCとの連携

大和証券SMBCは、平成20年度リーグテーブルにおいてサムライ債主幹事で第1位を獲得したほか、IFR誌の「Yen Bond House of the Year 2008」、EUROWEEK誌の「EuroWeek Review of The Year 2008」において「Best Lead Manager of Yen Bonds」を受賞するなど、法人向け証券業務において内外で高い評価を受けています。また平成21年5月には欧州を基盤としM&Aアドバイザー業務を主要業務とする投資銀行クロス・ブラザーズ・コーポレート・ファイナンス社を買収し、日本企業によるクロスボーダーM&Aを一層強力にサポートすることが可能になりました。

平成20年度 シンジケートローンブックランナー(国内)^{*1}

ブックランナー	取引金額(百万円)
1 三井住友フィナンシャルグループ	8,883,763.6
2 みずほフィナンシャルグループ	8,473,285.2
3 三菱UFJフィナンシャル・グループ	7,209,887.1
4 シティ	742,290.6
5 JPモルガン	316,342.4

平成20年度 サムライ債^{*1}

ブックランナー	取引金額(百万円)
1 大和証券SMBC	469,033.3
2 日興シティ	421,700.0
3 みずほフィナンシャルグループ	280,800.0
4 野村	208,000.0
5 UBS	144,933.3

^{*1} 出典：トムソン・ロイター

Topics

◆ 日興コーディアル証券等の事業取得

平成11年4月以降、大和証券SMBCをホールセール証券ビジネスの中核と位置付け、事業を展開していますが、これに加えて、日興コーディアル証券が保有する法人取引機能、および日興シティグループ証券が保有する株式と債券の引受機能と法人顧客カバレッジ機能の一部を併せ持つこととなりました。既存の大和証券SMBCというホールセール証券のプラットフォームに、多数の上場企業主幹事先並びに強力なディストリビューション能力を有する新・日興証券が加わることで、お客さまに一層ご満足いただけるサービスを提供できるようになります。

◆ プロジェクトファイナンス

Project Finance International誌が実施した「PFI Awards 2008」において、欧米主要行を抑えて「Global Bank of the Year」に選出されました。また三井住友銀行がアレンジした多数のプロジェクトファイナンス案件においても「Deal of the Year」を受賞し、グローバルで高い評価を得ています。

2008年ディール・オブ・ザ・イヤー受賞主案件^{*2}

受賞カテゴリー 地域/産業	案件名	組成金額 (単位：百万)
アメリカ/電力	Angamos	US\$ 989
アジア太平洋/インフラ	Newcastle Coal Loader	A\$ 1,200
欧州/石油	Lotos	US\$ 1,800
中東・アフリカ/電力	Ras Laffan C	US\$ 3,300

^{*2} 出典：Project Finance International誌

◆ 環境ビジネス

三井住友銀行では、平成19年10月に環境ソリューション室を立ち上げて以来、排出量取引を中心とした環境ビジネスを推進しています。海外においても子会社のブラジル三井住友銀行の傘下に、排出量プロジェクト(クリーン開発メカニズム(CDM))の開発を支援するコンサルティング会社を設立、またフィリピンの大手民間商業銀行であるMetropolitan Bank and Trust Companyとの業務提携など発展途上国でのプロジェクト開発支援から日本企業による排出量の取得支援までを一貫してご提供できる体制を構築しています。